その他

「積極性」に課題のある実習生の「本日の実習目標」の立て方に関する検討

上　月　智　晴
（児童学科）

教育実習・保育実習では大学での座学以上に積極的な姿勢が求められるが、学生が実習後に自覚する課題として積極性が挙げられることが少なくない。本稿では、積極性に課題のある実習生の「本日の実習目標」の記載内容の検討を通して、実習中に積極性が発揮されない要因を考察した。その結果、実習生の「本日の実習目標」の立て方の問題として「具体的でないこと」、「適切な時期・タイミングで設定されていないこと」「バランスに欠けている（偏っている）こと」「前日の反省点が活かされていないこと」の 4 つの問題点が見えた。

キーワード：幼稚園実習，保育所実習，実習生，実習目標，積極的

1．はじめに

教育実習・保育実習は、大学で学んだ様々な教科目の知識、技術、理論を応用しながら、実習体験を通じて教師・保育者としての専門性、実践力を高めていく重要な機会である。本学児童学科では、保育士資格取得に必要となる保育実習については、2 年次の夏休みに保育実習Ⅰ（保育所実習・2 週間）、同年次春休みに保育実習Ⅰ（施設実習・2 週間）、3 年次夏休みに保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所実習・施設実習の選択必修・2 週間）を行い、幼稚園教諭免許取得に必要となる教育実習については、3 年次 6 月と 4 年次 6 月にそれぞれ 2 週間ずつの実習（前者は大学の指定する園で、後者は自分で受け入れ先を開拓する園で）を行っている。保育士資格・幼稚園教諭免許にかかわる実習について、2 年次から 4 年次にかけて 5 つの実習を経験するわけであるが、学生は大学と実習での学びを往還させながら自身の保育者としての専門的知識や技術を高めていく。

実習では、大学での座学以上に「積極的」な姿勢が求められる。教育実習・保育実習に関する多くのテキストには、実習に臨む態度や心構えとして「積極的」「積極性」とう言葉の記述が見られる（池田・阿部；2019）[1]。本学児童学科発刊の『教育・保育実習の手引き』においても、「指示されて動くのではなく、まわりの先生方の動きを常に観察し、自ら学ぶ姿勢で積極的に行動」[2]することや、「実習という与えられた機会（チャンス）を活かすために、何事にも積極的・意欲的に取り組む姿勢」[3]を学生に求めている。また「積極性」は本学の幼稚園実習・保育所実習の評価項目の中にも位置づいている（表 1）。

実習には、大学で学んだ成果を実践・応用し検証する「検証型」の実習の性格と、保育者として求められている自らの課題を発見する「課題発見型」の実習の性格があるとされる [4] が、学生が実習後に自覚する（自覚させられる）課題として、「積極性」が挙げられることは少なくない。実習後に行われる実習先との実習反省会において、「貴学の学生さんは真面目であるが積極性に欠ける」という評価をいただくことがある。先行研究においても、実習生の実習態度で努力を必要とする点として「積極性」の項目が突出して高い数値であったことが報告されている（北野・塩津・藤原・山口・佐藤；2020）[5]。「積極性」は心構えの問題とも言えるので、

表１ 積極性にかかわる評価項目（「幼稚園実習・保育所実習評価票」より抜粋）

幼稚園実習	・幼稚園の一日の生活の流れを理解し，**積極的**に参加するよう努力したか（評価項目「**幼稚園の理解**」） ・実習指導者の指導・助言を**積極的**に求め，保育技術の向上に努力したか（評価項目「**保育技術の習得**」） ・**積極的**に子どもたちの中に溶け込み，どの子ともかかわり，理解しようと努力したか（評価項目「**幼児へのかかわ**り」）
保育所実習	・疑問に感じたことを職員に質問するなど、**積極的**に学ぼうとする姿勢があったか（評価項目「**実習意欲**」） ・**積極的に**子どもに関わり、信頼関係を築こうと努力したか（評価項目「**子ども理解と援助**」） ・保育士の職務を理解し、自分でできる仕事を見つけ、保育の準備や片づけ、環境整備等にも**進んで取り組むこと**ができたか（評価項目「**職員間の連携とチームワーク**」）

発達の理解や教材研究、指導案作成、記録等、保育の専門的知識や技術に関する事柄よりも容易にその評価を高めることができそうであるが、現実はそう簡単ではない。実習生が積極的に取り組んだつもりであっても、実習先の方ではそのように受け取られないことがしばしばである。概して「積極性」は、学生の自己評価よりも実習園側の評価の方が低い傾向にある（太田；2014[6]、平澤；2020[7]）。「積極的」「積極性」という言葉は、使用する側、受ける側によってその度合いも様々であるとされる（池田・阿部；2019）[8]。

実習事前・事後指導において、「積極的」に実習に臨むことの大切さを学生に説くだけでは、「積極性」に課題のある学生がそれを克服していくことは難しい。どうすれば実習生が実習で「積極性」を発揮することができるか、「積極性」を発揮できない要因を分析すると同時に具体的な方策を探る必要がある。

実習生が「積極性」を発揮できない要因には、学生個人の気質・性格、免許・資格取得へのモチベーション、学力、実習事前準備・事前学習の取り組み具合、園側の雰囲気等、様々な問題があると考えるが、本稿では、実習生が実習中に毎日立てる「本日の実習の目標」（以下「本日実習目標」）に着目して検討を行いたい。「本日実習目標」は「実習日誌」に記載する記入項目の一つであるが、「子どもの姿」「保育者の援助」「実習生の動き」「振り返り考察」等の欄に比して、実習先職員から指摘（添削指導）を受けることはあまりない。しかしながら、「本日実習目標」が、毎日どのように記載（設定）されるかは、当然、実習生のその日その日の「積極性」に大きな影響を与えると考える。本稿では、「積極性」に課題のある実習生の「本日実習目標」の記述内容を検討することを通して、今後の保育者養成課程における実習事前・事後指導の手掛かりを得たいと考える。

２．分析対象とする実習と実習生

(1) 分析対象実習

本稿では、４年次６月に実施される幼稚園教育実習（以下「４年次実習」とする）を取り上げる。この実習は、先述したように、教育実習・保育実習を通じて最後の実習であり、最も「積極的」な姿勢が求められる実習と言える。本学が「４年次実習」で設定しているねらい、内容は以下のようになっている[9]。

＊教育実習（４回生前期）のねらい

３回生時の幼稚園教育実習の経験をふまえて、さらに幼稚園や幼稚園教諭の職務・役割および子どもに対する理解を深め、幼稚園教諭になるという自らの意欲を高める。また卒業して幼稚園教諭となるために必要な自らの課題を確認することをねらいとし、次のことを学ぶ。

① 前回の指定幼稚園との違いを通して、幼稚園の特色や教育方針・教育内容などのあり方について学ぶ。

② 実習園における子どもの活動、生活の状況を理解する。

③ 幼稚園教諭の職務内容・役割についてさらに理解を深める。

④　実習を通して幼稚園教諭になる自分を見つめ、幼稚園教諭として求められているものは何か、これから卒業までに学ばなければならないものは何かなどを考える。

＊実習の段階および内容

2 週間のうち、1 週めの前半は主として観察と参加、後半から部分実習を行ない、2 週めは、参加・部分実習を行ないながら、指導実習の準備（週案との関連、日案を作成するなど）をし、後半に指導実習を行なう。ただし、これはあくまでも一般的な実習方法であり、あくまでも各実習園の指導に従って実習を行うものとする。

また、3 回生時の実習経験での自己評価と反省を通して自己をふり返り、これまでの実習で経験してきたことと大学で学んできたこととを関連づけながら、それを実践を通して検証できるように心がけるようにする。

(2) 分析対象実習生

分析対象とする実習生は、筆者が「4 年次実習」において実習事前・事後指導及び実習巡回訪問指導を担当した学生で、特に「積極性」を課題としていた一人（以下「実習生 A」とする）である。

実習生 A は真面目な学生であるが、過去の実習においても「積極性が足りない」等の評価を受けていたので、「4 年次実習」では特に「積極的に実習に臨む」ことを自己課題とし実習に臨んでいた。しかしながら「4 年次実習」でも思うようにそれが発揮できず、実習後の実習評価では「積極性」に関する評価が低く、所見欄でも「…普段の遊びからもっと積極的に子どもと関わって一緒に遊ぶことができるようになればいいな…と感じました。…」とのコメントをいただいた。そのようなこともあったので、特に「4 年次実習」での実習事後指導では丁寧に振り返りを行った学生である。

(3) 分析の方法

実習生 A が 4 年次実習の実習日誌の「本日実習目標」の記載内容に着目し、実習で積極性が発揮されなかった要因として考えられる点について分析を行った。「本日実習目標」を分析するにあたっては、その日の「反省欄（「今日の実習で出会った出来事・エピソード」と「本日の振り返りと考察」）に記載されている内容及び実習事後指導で筆者が実習生 A から聞き取った内容と合わせて検討を行う。

(4) 倫理的配慮

実習生 A に本研究の目的と、分析方法として実習生 A の実習日誌に記載されている「本日実習目標」及び「反省」欄の内容、実習事後指導で聞き取った内容を使用すること、また、実習生及び実習生が実習した園の匿名性に十分配慮した上で論文として引用・発表することについて説明し、承諾を得た。

3．実習生 A が実習した実習園・クラスの概況と実習目標

(1) 実習生 A が実習した園と実習クラスの概況

・実習園…実習生 A の出身園である公立幼稚園。園児数約 100 名。
・実施時期…202X 年 10 月中旬（6 月に予定されていたが、園側の事情により秋に延期実施）
・実習日数…10 日間（月曜日から金曜日までの 5 日間を 2 週間）
・主な配属クラス…5 歳児クラス A 組（園児数 21 名）（ただし、実習 2 日目・3 日目は急な事情により予定変更で同学年の 5 歳児クラス B 組で実習を行う）
・実習の段階…特に観察実習はなく参加実習を中心に、実習 8 日目に部分実習（帰りの会・降園実習）、10 日目に責任実習（主活動の設定保育のみ）を行う。

(2) 実習生 A の「実習目標・実習課題」と 10 日間の「本日実習目標」

・実習生 A が実習前に立てていた「実習目標・実習課題」

子どもの遊びや生活場面から子どもの発達を理解し、保育者から小学校進学に向けての援助の仕方を学びながら、自分も部分実習・責任実習、遊び、生活などの時間に実践する。園で過ごす子ど

もたちの様子から、子どもの興味・関心に適したねらい・援助を考えて指導案を作成する力を身に付け、楽しさを感じる活動を行うことができるよう努める。

・実習生Ａが実習中に毎日立てていた 10 日間の「本日実習目標」

1 日目	担当クラスの雰囲気になじむ
2 日目	一日の活動の流れを覚える
3 日目	積極的に子どもの遊びに参加する
4 日目	生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ
5 日目	生活や遊びの中で積極的に子どもと関わる
6 日目	前向きな姿勢でクラス活動に参加し、子どもの個性をとらえる
7 日目	クラス活動に参加し、子ども一人ひとりの個性をとらえる
8 日目	これまでの実習での学びを活かしながら、降園実習をする
9 日目	設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する
10 日目	これまでの実習で学んだことを活かしながら、設定保育を行う

４.「本日実習目標」の分析と考察

実習生Ａが毎日記載していた「本日実習目標」を見て、実習生が積極性を発揮できていない要因として４つの問題があると考えられた。それは、１つ目に「目標が具体的でないこと」、２つ目に「目標が適切な時期・タイミングで設定されていないこと」、３つ目に「目標がバランスに欠けている（偏っていること）」、４つ目に「前日の反省点が活かされていないこと」である。以下、順に述べていく。

(1)「本日実習目標」の具体性について

まず、実習生Ａの「本日実習目標」で気になった点が、その「具体性の無さ」である。

たとえば、実習１日目に「担当クラスの雰囲気になじむ」とあるが、「雰囲気」というつかみどころのない対象に対してどのように「馴染んで」いくのか、漠然としていてイメージをもちにくい。人見知りで、緊張しがちな実習生Ａにとって、一日でも早く「担当クラスの雰囲気になじむ」ことは切実な問題であり、それを初日の実習目標にしようと考えた実習生Ａの思いは十分理解できる。しかし「雰囲気になじむ」という抽象的な目標からは、積極的な行動は生まれにくいと考える（これは後程、この日の「反省」欄を見て考察する）。

また、実習３日目の「積極的に子どもの遊びに参加する」、実習４日目の「生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ」、実習５日目の「生活や遊びの中で、積極的に子どもと関わる」という目標も、各実習日毎にどのような意識や視点をもって子どもの生活や遊びに参加したり、関わったり、観察したりするのかが見えてこない。「生活や遊びの時（の中で）」という書き方も、焦点が定まっておらず、一日の実習をぼんやりと過ごしてしまいそうである。

実習９日目の「設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する」という目標も、教師の援助・配慮のどういった点に注目するのか、また実習８日目・10 日目の「これまでの実習での学びを活かしながら降園実習をする・設定保育を行う」という目標についても、「これまでの実習で学んだこと」とは何か、それを具体的に表記して（意識して）はじめて積極性が生まれると考える。

表２は、筆者が、実習生Ａの各実習日の「本日実習目標」を見て、もっと具体的に記載したい（考えておきたい）例として挙げたものである。このような点を実習生Ａが考えていたかどうか尋ねたところ（「本日実習目標」欄に記載していなかったけれど、頭の中で考えていた可能性はあるので）、正直あまりよく考えていなかったということであった。

実習生Ａと今回の実習を振り返る中で、「担当クラスの雰囲気になじむ」（実習１日目）という漠然とした目標は、実習生の「子どもと仲良くなりたい（親しくなりたい）」という思いが、

表2　「本日の実習目標」の具体的に記載したい（考えておきたい）例

	本日の実習目標	具体的に記載したい（考えておきたい）例	
1日目	担当クラスの雰囲気になじむ	※「担当クラスの雰囲気になじむ」とは？ ・子どもと仲良くなること？ ・子どもと信頼関係を形成すること？ ・子どもに安心感をもってもらうこと？ ・子どもの興味関心等を理解すること？ ・保育者と親しくなること？ ・保育者の保育観をつかむこと？ ・クラスの一日の生活を知ること？　etc	「なじむ」ためにどうるするのか？ ・子どもの顔と名前を覚える？ ・笑顔で子どもに関わる？ ・積極的にコミュニケーションを取る？ ・一緒に遊ぶ？ ・保育者と子どもの関わり方を観察する？ ・わからないことを質問していく？　etc
2日目	一日の活動の流れを覚える		
3日目	積極的に子どもの遊びに参加する	※何のために子どもの遊びに参加するのか？ ・5歳児の発達の姿を理解するため？ ・一人ひとりの子どもの興味関心、遊び方を知るため？ ・子ども同士の関わりを学ぶため？ ・子どもとの信頼関係を築くため？　etc	
4日目	生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ	※生活や遊びの時とはどんな場面？ ・登園から降園までの一日中のこと？ ・食事の時間のこと？ ・自由遊びの時間のこと？ ・設定保育の時間のこと？　etc	※子どもの様子とは？ ・一人ひとりの子どもの興味関心、遊び方？ ・子ども同士の関わり？ ・基本的生活習慣に関する育ち？ etc
5日目	生活や遊びの中で積極的に子どもと関わる	※生活や遊びの中でとはどんな場面？ ・登園から降園までの一日中のこと？ ・食事の時間のこと？ ・自由遊びの時間のこと？ ・設定保育の時間のこと？　etc	何のために子どもと関わるのか？ ・一人ひとりの子どもの興味関心、遊び方を知るため？ ・子ども同士の関わりを学ぶため？ ・子どもとの信頼関係を築くため？　etc
6日目	前向きな姿勢でクラス活動に参加し、子どもの個性をとらえる	※クラス活動とは？（4日目・5日目の「生活や遊びの時（中）との違いは何か？） ・設定保育のこと？ ・クラス集団で取り組むあらゆる活動のこと？　etc	
7日目	クラス活動に参加し、子ども一人ひとりの個性をとらえる	※クラス活動とは？（上記の生活や遊びとの違いは何か？） ・設定保育のこと？ ・クラス集団で取り組むあらゆる活動のこと？　etc	
8日目	これまでの実習での学びを活かしながら、降園実習をする	※これまでの実習での学びを活かしながらとは？ ・帰りの会の「ねらい」や「留意事項」で大切なことを意識しながら？ ・一日の園生活で楽しかったことを共有・共感し合えるように？ ・明日への期待がわくような帰りの会を進められるように？ ・クラス全体に伝わる話ができるように？　etc	
9日目	設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する	※教師の指導援助のどういった点に注目するのか？ ・クラス全体への言葉かけと個々の子どもへの援助や見守り方？ ・子どもの発想の活かし方や臨機応変な対応？ ・子どもの意欲を引き出す動機づけ？ ・子どもが主体的に取り組めるような活動の展開の仕方？ ・活動の準備や片付け、環境構成、教材の仕方？ ・活動と活動の移行の仕方？　etc	
10日目	これまでの実習で学んだことを活かしながら、設定保育を行う	※これまでの実習での学びを活かしながらとは？ ・個々の子どもの姿を把握しながら全体の集団の活動を進めていくこと？ ・一方的な説明・進行にならないように対話的に進めていくこと？ ・実習生自身が楽しみながら進めていくこと？ ・子どもに伝わる声の大きさを意識すること？ etc	

※「本日の実習目標」欄の下線は、実習生Aが具体的に書けていないところ

また「生活や遊びの中で、積極的に子どもと関わる」(実習５日目)という目標は、「とにかく、どこの時間帯・活動場面であろうと、子どもと関わることができるようになりたい（4 日目の反省を踏まえて)」という願いがあることが、筆者には感じられた。しかし、そのためにどのような意識や視点をもって子どもと仲良くなっていくのか（関わっていくのか）までは具体的に考えられていなかったようである。

「本日実習目標」が抽象的であった場合、その日の反省も当然、浅くなりがちである。表３は、実習生Ａの「反省欄（エピソード・振り返り・考察欄)」に記載されていた記述内容について、「本日の実習目標に対するもの」と「その他の事柄に対するもの」の記述量（行数）を見たものであるが、これを見ると、「本日の実習目標に対するもの」が５行以内という日が 10 日間の内５日間あった。その日の目標について深く振り返ることができていない日が実習日の半数あるのは、各実習日の目標の抽象性にその原因の１つがあると思われる。

表3　「エピソード・振り返り・考察欄」の記述内容と記述量（行数）

	本日の実習目標に対するもの		その他の事柄に対するもの		計
1日目	18	(100%)	0	(0%)	18
2日目	2	(10%)	18	(90%)	20
3日目	2	(10%)	18	(90%)	20
4日目	11	(65%)	6	(35%)	17
5日目	22	(100%)	0	(0%)	22
6日目	5	(24%)	16	(76%)	21
7日目	4	(24%)	13	(76%)	17
8日目	10	(59%)	7	(41%)	17
9日目	5	(31%)	13	(69%)	18
10日目	25	(100%)	0	(0%)	25

また、「反省欄」でその日の「本日実習目標」に対する記述量が多い日であっても、必ずしも深い振り返りがなされているとは限らない。「本日実習目標」が抽象的であった場合、その日の実習はどのような取り組みとなるのか、実習生Ａの実習日誌の「反省」欄の記載内容から見ていきたい。以下は実習１日目の「反省」欄の記録である。

＜実習１日目＞

＊今日の実習で出会った出来事、エピソード

今日は登園してすぐドングリにつまようじを刺して、こまや飴を作る子どもたちの姿を見ることができました。子どもは大きくてまるまるとしたドングリ見て、「大きいね」「すごい」と話しており、秋の植物に興味を持っているのだと感じました。ドングリに好きな色で塗ったり、好きな絵を描いたりして、集中している姿を見守りながら、「どんな絵を描いているの？」と声をかけたところ、Ａ君は「目玉を描いているよ」と話し、Ｂ君は「怖いの描いている」と話してくれました。私は実習初日で少し緊張していたのですが、私の声かけに笑顔で答えてくれて、描いた絵の説明までしてくれました。Ａ君とＢ君の作るドングリについて話していると、周りにいた子どもたちとも関わりを持つことができました。まだ話ができていない子どもがいるので、これから２週間一緒に遊びたいなと思いました。

＊振り返りと考察

今日は実習初日であったことから少し緊張し、どのように子どもと関わるといいかと困惑し、子どもの遊びの中に入ることに時間がかかってしまいました。また私が抱いていた緊張を子どもが感じ取ってしまったと考えると反省しなければならないと思いました。

５歳児は友達と一緒に好きな遊びを楽しむため、遊ぶ姿を見守りながら、タイミングを見て声掛けすることが大切なことだと学びました。明日から遊びの中での関わり方を学んでいきたいと思います。

（下線は筆者による）

実習初日、実習生Ａは、緊張のためどのように子どもと関わればよいか困惑し、子どもたちの遊びの中に入ることに時間がかかってしまったことを反省しているが、それでも自分なりに、登園後の自由遊びの中でドングリを素材に絵を描いて遊んでいたＡ君、Ｂ君と言葉を交わせたこと、それをきっかけにＡ君、Ｂ君以外の他児とも関わりをもつことができたことを記している。５歳児が集中して絵を描いている姿をそっ

と見守りながら、自分から「どんな絵を描いたの？」とコミュニケーションを図っていった実習生Ａの姿から、本人なりの積極性が感じられる場面である。実習生Ａはこのエピソードをこの日の「本日実習目標」である「担当クラスの雰囲気になじむ（クラスの子どもたちと仲良くなる）」ことに近づけた事例として記述したということであったが、ここでのコミュニケーションについてもう少し振り返っておきたい。

何のために「クラスの子どもたちと仲良くなる」のか。それは、これからの２週間、実習生（保育者）として子どもたちを指導援助していくために、一人ひとりの子どもをよく理解すること、また、信頼関係を築いていく必要があるからであろう。単におしゃべりをすればよいということではない。だとすれば、この場面でのコミュニケーションや子ども理解はもっと深められてもいい気がする。

この場面、筆者には子どもの姿・つぶやきが興味津々でならない。どうして Ａ 君は「目玉」を描いているのか、Ａ君が描いている「目玉」は何の「目玉」なのか。また、Ｂ君が言っている「怖いの」とは何か、どうして「怖いの」を描いているのか。Ｂ君は「怖いの」をどんな気持ちで描いているのか。２人の描いているイメージの世界はつながりがあるのか、日頃の園生活、保育内容との関連など、興味が尽きない。筆者がもしこの場に実習生として参加しているとしたら、子どもがドングリに絵を描いている様子を邪魔しないように留意しながら、子どもと同じ床の上に立って、それらのことを尋ね共感したり、一緒にドングリに絵を描いてその活動の楽しさを共有したりすることで、目の前の子どもたちの理解や、子どもとの関係を深めていくだろう。もちろん、そのような関わりが効果的でなかったり、場合によっては逆効果だったりすることもあるかもしれないが、そのときはまたその問題を省察し、次の日の子どもとの関わりを見直していけばよいことである。そのような試行錯誤があってこそ積極的な実習となる。

次は、実習４日目の「反省欄」である。

＜実習４日目＞

＊今日の実習で出会った出来事、エピソード

（この日の設定保育であった描画活動での子どもの様子について記録。詳細は略）

＊振り返りと考察

…子どもたちの遊びの中に積極的に入ろうと考えていたのにできませんでした。…明日は前向きな姿勢で子どもと関わろうと思います。

実習４日目、この日は「生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ」という目標が設定されていたが、「反省欄」には「子どもたちの遊びの中に積極的に入ろうと思っていたのにできませんでした」という反省の弁が短い言葉で述べられていた（エピソード欄にはそれに関連する内容とは別のことが記載されていた）。この日の「本日実習目標」からは実習生Ａが「積極的に子どもの遊びの中に入ろう（子どもとの関係を築いていこう）」と考えていたことまでは読み取れないが、もしそのような思いをもってこの日の実習に臨んでいたのであれば、そのことをこの日の「本日実習目標」に記しておく必要があった（たとえば「子どもたちの遊びに積極的に参加し、信頼関係を築きながら、子どもの興味関心や子ども同士の関係を理解する」等）。「子どもの様子について学ぶ」という観察的であいまいな書き方が、その日の実習の姿勢に影響を与えていたかもしれない。

(2)「本日の実習目標」の適時性

実習生Ａの「本日実習目標」は、適時性についても気になる点が所々にある。

たとえば、実習２日目に「一日の活動の流れを覚える」という目標が設定されているが、これは、実習生がこれから見通しをもって主体的に２週間の実習に取り組んでいくにあたって重要なこと、実習序盤にふさわしい目標であると考える（ただし、実習生Ａの一日の活動の流れを「覚える」という言い方が妥当であるかは要検討である。実習序盤に一日の活動や生活の流れを理解することは、単に、そのクラスでどん

な活動がどんな順序で行われるのかを暗記することではない。一日の生活の流れをつかむ中で一日の保育者の職務・動きを理解することに重要な目的があると考える)。この目標が実習１日目に（から）設定されていないのは適切ではない。実習２日目は、急な事情で実習クラスが５歳児Ａ組から５歳児Ｂ組に変更となり初めて入るクラスであることから実習生Ａがこの目標を設定したことは理解できるが、当然、実習１日目でも設定すべき実習目標である。

また実習４日目に「生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ」という「子ども理解」に関する目標が設定されているが、この目標も実習序盤に設定すべき目標であると考える。保育は子ども理解にはじまると言われるが、2週間の中で子どもたちに少しでも適切な援助ができるよう、このような内容も実習序盤から設定しておきたい。

実習９日目の「設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する」という目標は、翌日の実習10日目に予定されている「設定保育（実習生が行う責任実習)」を意識して設定したものと思われるが、責任実習をする前日になって初めてそれを意識しているようでは遅い。もちろん、「本日実習目標」に「教師の援助・配慮」に関することを明記していないからといって、まったくそれを学びの視点に置いていないということはないだろう。実習日誌には時系列形式の記録用紙もあり、そこで「教師の援助」欄での記録を行い、教師の援助・配慮についても考えているだろう。しかし、「本日実習目標」においてそれを明確に設定することで、教師の援助・配慮についても上記の子ども理解と同様に考察が深まっていくと考える。

実習３日目の「積極的に子どもの遊びに参加する」という目標も、目標それ自体は悪くはないが、実習生Ａがこの日の目標にこれを設定した理由を考えると要検討である。この日の目標は、「明日でＢ組に入るのは最後なので、積極的に子どももと遊んだり、話しかけたりしていきたいと思います」と記されている（前日の「反省欄」より）。このＢ組での２日間の実習は園の急な事情により臨時的対応として入っているクラスである。そう考えると、積極的に子どもの遊びに参加することを目的とするよりも（もちろんしても良いが）「5 歳児の発達の姿や保育者の援助について学ぶ」というような観察的な方法による学びの目標を設定しても良かったと思われる。

(3)「本日の実習目標」のバランス

実習生Ａの 10 日間の「本日実習目標」を見ていると、その着眼点（意識を向けているところ）に偏りがあることに気づく。10 日間の「本日実習目標」のほとんどが子どもに対するもので（1 日目・3 日目・4 日目・5 日目・6 日目・7 日目・8 日目・10 日目)、保育者への着眼が明確に読み取れるのは実習９日目の「設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する」の１日のみである。保育者への着眼、保育者の姿を見て学ぼうとする意識が弱く、子どもと積極的に関わることにとらわれ過ぎていると言える。

このようなアンバランスな目標設定となっている原因は、実習生Ａが特に今回の実習で「子どもに積極的に関わっていくこと」を自己の実習課題として強く意識していたことにあると考えられるが、当然、実習で求められる積極性は子どもに対してのものだけではない。基本的には保育者の職務全体（園の役割や保育理念を理解すること等も含めて）に対しての積極性が求められる。特に子どもと関わることを自己課題に置いていたとしてもあまりにもアンバランスな 10 日間の目標設定である。

保育者を積極的に観察することは、当然、保育者の子どもへの関わりに注目することを含む。そこでは、保育者が様々な場面で、一人ひとりの子どもにどのように関わり、援助しているのか、クラス全体への集団への働きかけなど、実習生が積極的に子どもにかかわっていくにあたってヒントになることがたくさんあることと思われる。子ども理解、子どもと関係を築いていくことはもちろん重要ではあるが、それだけに視点を置いた目標は、かえって子どもの見方、多様な関わり狭めることになる。もしかしたら、

実習生Ａは、毎日の実習目標は１つに絞らなければならないという意識があり、複数の実習目標を立てるという考えが及ばなかったのかもしれないが、むしろ毎日の実習目標は複数あったほうがよいと考える。

実習生Ａが今回の「4年次実習」に臨む前に立てていた「実習目標・実習課題」には、実はバランスの良い目標・課題が考えられていた。そこには、「子どもの遊びや生活場面から子どもの発達を理解し」という子どもに関する目標・課題と、「保育者から小学校進学に向けての援助の仕方を学びながら」という保育者の援助に関する目標・課題の２つが記されていた。そして、その２つを統合しながら、実習の後半・終盤に「自分も部分実習・責任実習、遊び、生活などの時間に実践する」「園で過ごす子どもたちの様子から、子どもの興味・関心に適したねらい・援助を考えて指導案を作成する力を身に付け、楽しさを感じる活動を行うことができるよう努める」という目標・課題が立てられていた。これらの実習全体の目標・課題を10日間の実習の中でスモールステップを踏みながら達成していくことができるように具体的な計画・見通しが立てられていれば、また変わった実習になっただろう。

(4)「本日の実習目標」と前日の反省点との関連性

４つ目の問題として、実習生Ａの毎日の「本日実習目標」とその前日の反省点との関連について考えたい。表４は、各実習日の「本日実習目標」とその前日の反省との関連性を見たものである。これを見ると、10日間の中の所々で前日の反省課題が反映されていないことが伺える。

たとえば、実習１日目の「反省欄」に「…まだ話ができていない子どもがいるのでこれから2週間一緒に遊びたいと思います。…5歳児は友達と一緒に好きな遊びを楽しむため、遊ぶ姿を見守りながら、タイミングを見て声掛けをすることが大切だと学びました。明日から遊びの中での関わり方を学んでいきたいと思います」と、実習１日目に関わりをもてなかった子どもと遊ぶことや、5歳児の発達を踏まえた言葉かけについて学んだことを次の日に活かしたいことが記されているが、翌実習２日目は「一日の活動の流れを覚える」という目標のみで、前日の反省・課題が反映されていない。

実習３日目の反省欄には「…遊びの中で子ども同士の意見の違いにより２人が言い合いをするような場面を見ました。…（中略）…自分たちで話し合って解決する姿を見たため、自分の思いを友達に伝えることができるよう援助することが大切なのだと思い、明日からの実習でも実践してみようと思います」と子ども同士のトラブルへの関わりで示唆を得たことを次の日から実践できるように頑張りたいという思いが記されているが、翌日の実習４日目には「生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ」という目標が設定され、ここでも前日に立てた課題が反映されているのかいないのかが不明確である。

実習６日目の反省欄にも「…生活や遊びの時に全体を見ることができていなかったことに気づきました。明日からは周りを見ることを心がけ、子ども一人ひとりと関わりたいと思います。」と個別に子どもと関わりを持てるようにはなったが、クラス全体を見る視野がないことを反省し、その点についての意識を次の日から持てるようにと課題設定している。しかし翌実習７日目は、「クラス活動に参加し、子ども一人ひとりの個性をとらえる」となっており、クラス全体への視野が目標設定に表れていない。

ここには日々の目標設定→実習（実践）→反省→再目標設定というような循環過程が見えてこない。実習は毎日の反省、課題発見の連続である。その毎日の反省、課題が次の日に活かされ、引き継がれてこそ、実習生の保育者としての専門的力量は高まっていく。保育の専門的知識や技術が不十分である実習生であるからこそ、この「本日実習目標」の設定は、前日の丁寧な反省の上に立ってなされることが重要である。「本日実習目標」の設定に循環過程が見て取れたそのとき、実習は、積極的なものになると考える。

表4　実習生の本日の実習目標と前日の振り返り・反省欄に記載されていた「明日への課題」との関連性

	本日の実習の目標	前日の反省との関連性	本日の振り返り・反省欄に記述されていた「明日への課題」
1日目	担当クラスの雰囲気になじむ		…まだ話ができていない子どもがいるので**これから2週間一緒に遊びたい**と思います。 …5歳児は友達と一緒に好きな遊びを楽しむため、遊ぶ姿を見守りながら、タイミングを見て声掛けをすることが大切だと学びました。**明日から遊びの中での関わり方を学んでいきたい**と思います。
2日目	一日の活動の流れを覚える		…5歳児は自分で朝の用意や準備をすることができたり、誰と一緒に遊ぶのか決めていたりするため、関わるタイミングについて迷ってしまったことがありました。明日でB組に入るのは最後なので、**積極的に子どももと遊んだり、話しかけたりしていきたい**と思います。
3日目	積極的に子どもの遊びに参加する		…遊びの中で子ども同士の意見の違いにより2人が言い合いをするような場面を見ました。…（中略）…自分たちで話し合って解決する姿を見たため、自分の思いを友達に伝えることができるよう援助することが大切なのだと思い、**明日からの実習でも実践してみよう**と思います。
4日目	生活や遊びの時に過ごす子どもの様子について学ぶ		…子どもたちの遊びの中に積極的に入ろうと考えていたのにでいませんでした。子ども一人ひとりの個性を見つけ責任実習で活かすことができるよう**明日は前向きな姿勢で子どもと関わろう**と思います。
5日目	生活や遊びの中で積極的に子どもと関わる		…まだまだ話ができていない子どもがいるなと思い、責任実習を行うためにも**子ども一人ひとりと関わり少しずつ個性を捉えることができるといいな**と考えます。
6日目	前向きな姿勢でクラス活動に参加し、子どもの個性をとらえ		…生活や遊びの時に全体を見ることができていなかったことに気づきました。**明日からは周りを見ることを心がけ、子ども一人ひとりと関わりたい**と思います。
7日目	クラス活動に参加し、子ども一人ひとりの個性をとらえる		（特に明日への課題の明記無し）
8日目	これまでの実習での学びを活かしながら、降園実習をする		…今日の降園実習を振り返ってみて、…（中略）…落ち着いて話を聞くことができるようメリハリをつくることが大事なことであると学びました。また、私の声が小さく子どもたちに聞こえていないのではないかと思い、反省しました。**もっと私の声を大きくしたり、明るくしたりする**ようにします。
9日目	設定保育に向けて、教師の援助・配慮に注目する		…このように子どもにとって理解しやすい言葉や説明が大切なのだと思いました。**明日の設定保育に活かしたい**と思いました。
10日目	これまでの実習で学んだことを活かしながら、設定保育を行う		…１つ１つ段階を踏んで説明する必要があったなど、もっと工夫すべきだったということを学びました。また時間配分も間違えてしまい、十分に遊びの時間を取ることができなかったことから、時間についてもよく考えるべきだとわかりました。…**この学びを現場で活かしていきたい**と思いました。

※下線と太字は筆者による

「本日の実習目標」が前日の反省と関連性のあるもの

「本日の実習目標」が前日の反省と関連性のないもの

5. まとめ

本稿では、「積極性」に課題のある実習生の「本日の実習目標」の検討を通して、実習で「積極性」を発揮できない要因を検討してきた。その結果、4 つの問題点が実習生の「本日の実習目標」に存在することが伺えた。

1 つ目に「目標が具体的でないこと」、2 つ目に「目標が適切な時期・タイミングで設定されていないこと」、3 つ目に「目標がバランスに欠けている（偏っている）こと」、4 つ目に「前日の反省点が活かされていないこと」である。

以上の 4 点は、教育実習指導、保育実習指導の授業において教授しているつもりであったが、必ずしも学生に認識されていないことがわかった。実習生 A との実習事後指導の振り返りの中で、学生は実習日誌の書き方についての学修記憶はあるが、毎日の実習の目標の書き方（立て方）についてはあまり記憶がないとのことであった。あらためて教育実習指導、保育実習指導の教授内容・教授方法を見直す必要がある。

今回は、一人の実習生の実習日誌の検討であり、同じ「積極性」に課題のある実習生でも、他のケースではまた違った特徴・問題点が見られる可能性がある。また実習で「積極性」を発揮できている実習生の「本日実習目標」の特徴を検討することで見えてくることもあるかもしれない。より多くの実習生の実習目標の立て方について検討を行っていきたい。

引用文献

1. 池田順子・安部久美 2019 保育実習における「積極性」「積極的」について立教女学院短期大学紀要 50 巻, pp.97-104
2. 京都女子大学「教育・保育実習の手引き」p.7
3. 同掲書 2　p.8
4. 同掲書 2　p.6
5. 北野富美子・塩津恵理子・藤原伸夫・山口香織・佐藤知恵 2020 保育実習園が実習生に求めるもの ：「積極性」に注目をして教職課程・実習支援センター研究年報 3 巻 pp.35-42
6. 平澤節子 2020 保育実習指導のあり方 ：事後指導における評価と振り返りに関する考察名古屋女子大学紀要. 家政・自然編, 人文・社会編 66 号 pp225－237
7. 同掲書 1
8. 同掲書 2　p.55